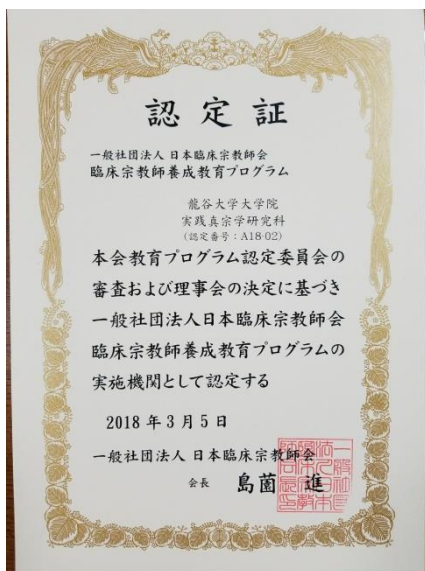


龍谷大学大学院実践真宗学研究科 臨床宗教師研修プログラムが、
日本臨床宗教師会において「臨床宗教師養成教育プログラム」の実施機関として
認定されました。



2018年3月5日、上智大学において、龍谷大学大学院実践真宗学研究科は、日本臨床宗教師会「臨床宗教師養成教育プログラム」の実施機関として正式に認定されました。

臨床宗教師とは、被災地、病院、社会福祉施設などの公共空間で、布教・宗教勧誘をせずに、人々の苦悩に寄り添い、生きる力を育む宗教者を指します。実践真宗学研究科では、2014年から東北大学大学院実践宗教学寄附講座と連携して、「臨床宗教師研修プログラム」をスタートし、緩和ケア施設や特別養護老人ホーム、被災地東北地方や被爆地広島において人々の悲しみに向き合う臨床実習と、宗教的死生観やスピリチュアルケアを学ぶ理論学修を融合した教育を行っています。

この度、その本学の取り組みが日本臨床宗教師会認定の臨床宗教師養成プログラムとして認定されました。併せて、臨床宗教師研修指導者として鍋島 直樹、黒川 雅代子、打本 弘祐も認められました。

資格認定された大学等教育機関は、東北大学、龍谷大学、愛知学院大学、武蔵野大学、種智院大学、高野山大学、大正大学の七大学と、日本スピリチュアルケアワーカー協会との8団体です。

認定臨床宗教師の数は、2018年3月5日現在、先駆者でもある臨床宗教師研修指導者20名、各大学教育プログラム修了生126名、合計146名です。



以上のことは、日本臨床宗教師会 HP をご覧ください。

<http://sicj.or.jp/>

また、下記のとおり、産経新聞に掲載されました。

産経新聞ニュース

<http://www.sankei.com/west/news/180306/wst1803060017-n1.html>

=====

被災者やがん患者らのケア「臨床宗教師」資格認定制度始まる 146人が取得



認定臨床宗教師の資格認定証を授与される修了者＝5日、
東京都千代田区の上智大（小野木康雄撮影）

東日本大震災を機に養成が始まり、被災者やがん患者らのケアに当たる「臨床宗教師」の資格認定制度が5日、新設された。日本臨床宗教師会（島藺進会長）の取り組みで、5年ごとの更新制。初回は146人が認定臨床宗教師となった。震災から7年となるのを前に、悲嘆や苦悩を和らげる専門職としての宗教者の活動が、新たな段階に入る。

臨床宗教師は、東日本大震災で宗教・宗派を超えた宗教者の有志が結集し、協力して犠牲者の追悼や遺族のケアに当たったことがきっかけで誕生した。東北大が平成24年度に養成を始め、龍谷大や高野山大などが追随。今年3月末までに7大学で延べ261人が研修を修了する見込みだ。

修了者はすでに被災地や医療・福祉機関などで活動をしているが、宗教への偏見などから協力を拒まれるケースもあり、布教や宗教勧誘を目的としない公共性の高い職種であると証明する必要があった。

このため、養成に取り組む各大学の研究者や各地の修了者らが28年2月に日本臨床宗教師会を設立。研修プログラムを精査するなど、資格化への準備を進めていた。今後は医師や看護師など、ほかの専門職との協力をさらに進める。

5日は上智大で資格認定証の授与式が行われ、修了者のうち希望した126人と、先駆者として300時間以上の臨床経験のある20人が認定臨床宗教師の資格を取得した。島藺会長は「日本の宗教界と社会の未来に大きく関わる歴史的な日。精進と活躍を祈ります」と激励した。

=====

この資格認定を受けることができたのは、実践真宗学研究科委員会をはじめとする関係の皆様のおかげです。誠にありがとうございました。

報告者 鍋島 直樹